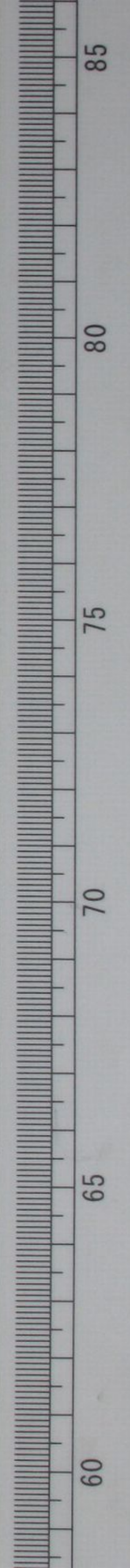




貝原
先生
家訓
全

曾
775
282



題貝原先生家訓首

自魏氏有家訓而後之君子義
方之教以貽厥孫謀庶世相經
愈出愈精其所以慎蒲蘓而防
範之審薰蕕而消息之無不丁
寧及霞委曲周密焉然事或煩
待言或激厲不無造夫子未出
於正之憾也若此書則門不為



三原僅廿二簡易直截括要不
仇諄諄典列後人易守為貝原
氏子孫者奉以為金科玉條亦
可知已。余嘗問之貝原先生。汝
行誼篤學法弘通。擢字為大瀛。
儒宗以矜士大夫其所著古儀
論紙正。皆可以楷模。後學至若
國字諸書。則寒鄉窮漁莫不流

傳。武人俗士亦皆享之。措履其
所以嘉惠天下。後世豈云淺鮮
乎。此書在未有刊本。往年余在
江都。得之於人某。藏之巾笥久
矣。頃書肆有乞梓之者。余意先
生石印。殆以十年。著以布世。已
數十部。此書獨至今未刊。其先
生自謙。不許視之。人手將其家

秘之不欲公之也。雖然君子
 澁言以之為則。寧可以其詹焉。
 之軒輕乎。迺此書之行。人奉以
 為金科玉條。則實踐篤行之可
 以為先生之流矣。嗚呼。豈唯為
 貝原氏家訓而已哉。余私以此先
 生者也。因欣然授之梓人云。
 寬政癸丑重陽日 赤穂 赤松勲題

貝原先生家訓

聖學須勤

大正二年一月廿日寄
中村精雄氏贈



凡人たるもの、聖人の行へば、
 志と志と、人の心と、心と、
 らる。これ聖学、よう、海、
 の法、青、み、古と考、人、
 誦、一、先と、用、心、
 行、あ、う、の、と、知、り、
 之、成、の、一、の、と、若、
 月、之、食、焉、也、人、皆、
 小、の、也、也、の、と、文、
 子、之、過、如、日、
 歳、か、く、た、る、也、

一 六歳の三月始て教の名し家邦の儀を習ふべし
 年毎に益かゝるに如くその六十字を教ゆべし
 和語と通じりて七歳の時始て孝悌を讀み
 孝弟忠信礼義廉恥の義を教へ又六帯の倫と通
 六紀の語七情六藝四民等の名目多くかゝるに
 一 八歳ハ古人小孝ハ入一年をり初て命語とよほし
 幼者ハお怠せり禮義を教梓讓と云
 又和語と句漢字の原書を習ひて
 一 十歳小孝ハ書とゆせ始て教の儀とよほす
 簡要なる所を記述し又其字と習ひて

一 十一歳是より湖西書ハ記述の儀とよほす文武の藝
 能とも習ひてむべし
 一 十二歳ハ古人大學ハ入一年をり二歳より三歳は義
 理と習ひ己と他人と治る道ヲ知て
 一 十三歳是より二十歳との間小學四書等の大義と通
 じりて若聰明なるに培くまひ多く知むべし
 一 凡君子は學問ハ智仁勇の三徳とて父子君臣
 夫婦長幼朋友の六倫とてことごとく
 一 學問の大綱ハ大學の經の文朱子の學規と云法別と云
 天地人の三才と習はるに仁氏の教ハ修己の若
 一 佛氏ハ修己のあらハ父祖の遺訓と習はるに不孝の罪と

